

入場無料
予約不要

2019年11月2日 (土)

BIO Mimetics

バイオミメティクス市民セミナー・対話篇

第95回 アントロポセン（人新世）とバイオミメティクス その2：人類学



出典：E&E News

<https://www.eenews.net/stories/1060058240>

人新世における人類は、気候変動や生物種の大量絶滅を引き起こす地球規模のアクターになったとされています。しかし、生態系に対して影響力を与えるメカニズムをどのように捉えたらよいのでしょうか。また、人新世における人類を考えることは、ヒトという種をどのように捉えるかという哲学的な問いにも関わっているのではないのでしょうか。近年、人間と自然の関わりを人文学的な観点から学際的に研究する環境人文学が世界的な注目を浴びていますが、この動向は人新世におけるヒトの現在と未来を占うものであるといえます。講演者が文化人類学的な研究をおこなってきたアラスカ先住民社会の現状を事例として、近年の研究成果にも触れながら「人新世」を考えてみましょう。



人新世に生きるヒト：

アラスカの環境人文学から考える

近藤 祉秋

北海道大学アイヌ・先住民研究センター 助教

主催：北海道大学総合博物館
共催：高分子学会北海道支部
北海道大学 電子科学研究所
特定非営利活動法人バイオミメティクス推進協議会
高分子学会バイオミメティクス研究会
公立千歳科学技術大学地域連携センター

北海道大学総合博物館
060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
問合せ先：TEL.011-706-2658 FAX.011-706-4029
E-mail: museum-jimu@museum.hokudai.ac.jp

会場：北海道大学総合博物館 3階 北講義室(N308)
札幌市北区北10条西8丁目

時間：午後1時30分から午後3時30分